

第3学年道徳指導案

平成17年10月28日(金)1校時

3年3組(男15名 女20名 計35名)

指導者 大谷 育子

1 主題名 はたらくって気持ちいい (4-(2)勤労)

2 資料名 朝のそうじ(出典 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の内容項目4-(2)は「働くことの大切さを知り、進んで働く。」となっている。仕事に対して誇りや喜びをもち、働くことの意義を自覚し、進んで社会の役に立つと心をもった児童を育てようとするものである。これは、第1学年及び第2学年の内容項目4-(2)「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」を受けたものであり、さらに、第5学年及び第6学年では、4-(4)「働くことの意義を理解し、社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。」に発展していく。

人間として生きていくためには、仕事に誇りと喜びを見だし、生きがいをもって仕事に取り組むことが大切である。働くことは、単に自分が生活していくためだけではなく、自分に課せられた社会的責任を果たすという意味においても大切なことである。それは、一人一人の働きによって社会生活が支えられているからである。働くことを通して、仕事を成し遂げた満足感と社会に対する奉仕や公共の役に立つ喜びを味わうことができる。また、他の人からも喜ばれ、快い気分になることができる。しかし、現代社会においては、個人の利害損得、快楽の優先、責任感・公共心の欠如などの社会的風潮が児童にも大きく影響している。働くことは時として、苦しみや困難を伴う場合があるが、それを乗り越えてこそ、成就感や満足感が得られ、仕事に対するやりがいが見いだせるということに気づかせていくことが大切である。

この時期の児童は、自分一人の力だけでなく、他との協力によって物事を成し遂げられるようになる時期である。児童は、周囲の賞賛や激励が動機となって働き始めることが多く、働くことの尊さや働くことの喜びについて、十分に考えて取り組むまでには至っていない。そこで、この段階において、働くことの楽しさや喜びの体験を積むことによって、集団の中で一人一人が自分の役割を果たすことがみんなのためになっていることを理解し、進んで働こうとする気持ちを育てる必要があると考える。

(2) 児童について

学級の児童は、明るく元気で、係活動や当番の仕事を一生懸命行っている。しかし、それは、与えられた仕事だからという意識でやっている場合が多い。ごみや床の汚れに気づいていても、そのままにしておいたり、清掃時間には、見ていないとふざけていたりする様子が見られる。全校のみんなの役に立つような仕事をしようと始めた学級ボランティア活動では、草取りや石拾い、あいさつ運動などに取り組んだ。ほめられたりきれいになることに喜びを感じたりして、活動の楽しさが分かり、一生懸命取り組む児童も見られてきたが、すぐ遊びに気をとられて人任せにしてしまう児童もいた。

そこで、このような児童に、一つ一つの仕事の意義を考えさせ、働くことの大切さを理解させたい。そして、仕事を成し遂げた成就感・満足感を味わわせ、自分が働くことによって、人の役に立っているのだということを実感させ、勤労の意欲を喚起させていきたい。

(3) 資料について

本資料は、具合の悪い母の代わりに住宅の大掃除に出て、初めはしかたなく働いていた「わたし」が、多くのことを学びとり、仕事をやり終えた後、すがすがしい気持ちになるという話である。学級ボランティア活動や全校清掃、家での仕事など自分たちのこれまでの体験と重ね合わせながら「わたし」の気持ちに共感し、勤労の大切さを考えるとともに、進んで働こうとする気持ちを育てるのに適した資料である。

(4) 授業の構想について

本価値にかかわって、児童は、全校清掃、家での仕事、学級ボランティアの体験活動を行っている。本授業では、それらの体験活動を生かしてねらいに迫りたい。「深める」段階では、自分たちの体験を思い起こさせながら、だんだん手が痛くなってきてやめたくなったが、しかたなく続けた「わたし」や、ほめられてやる気を出した「わたし」、仕事をやり終えた後すがすがしい気持ちになった「わたし」に共感させ、働くことによって得られる成就感やみんなの役に立ったという満足感に気づかせていきたい。

「見つめる」段階では、心のノートを活用し、みんなのために自分ができる仕事を考えさせ、これからの実践に結びつけるようにし、進んで働こうとする気持ちを高めていきたい。

4 全教育活動における本時の位置付け



清掃時間 【年間を通して】
進んで清掃を行い、みんなが気持ちよく生活できるようにきれいにする。

係活動 【年間を通して】
学級みんなのために役立つ活動を工夫して行う。

5 本時の指導

(1) ねらい 初めはしかたなく働いていた主人公が、仕事をやり終えた後すがすがしい気持ちになった心の動きに共感させることにより、働くことの大切さに気づき、進んで働くとする気持ちを育てる。

(2) 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	指導上の留意点や支援
気づく	<p>1 そうじに関するアンケート結果を見て、自分たちの仕事に対する意識の傾向を知る。アンケートの結果からどんなことを感じますか。</p> <p>2 資料を読んで感想を発表し、課題をたてる。読んで思ったことやみんなで考えたいことを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・しかたなくやっている人が多いんだ。 ・仕事が好きな人もいる。 ・初めはしかたなくだったけど、一生懸命働いてえらかった。 ・そうじが終わったときのわたしの気持ちを考えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの仕事に対する意識のアンケート結果を提示し、現在の課題を意識させる。 ・児童の感想をもとに、わたしの心の変化に着目させ課題をたてる。
10分	<p>大そうじが終わってすがすがしい気持ちになったわたしは、どんなことを考えているのだろう。</p>		
深める	<p>3 「わたし」の気持ちの変化を中心に話し合う。だんだん手が痛くなってきたとき、わたしはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>おばあさんに「3年生なのにもうそうじができるの。えらいね。」とほめられたとき、わたしはどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>お父さんに「こんなにたくさん、よくとったね。えらいぞ。」と言われたとき、わたしはどんなことを思ったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんの代わりにから疲れてもがんばろう。 ・大人の人たちが一生懸命やっているから、やめるわけにはいかない。 ・疲れたからちょっと休もうかな。 ・いやだな。もうやめたい。 ・もっと働こう。 ・うれしい。がんばればほめられる。 ・やめないでよかった。ちゃんと見ていてくれる人がいる。 ・しかたなくやっていたのに、ほめられるなんて恥ずかしい。 ・もっときれいにしよう。 ・がんばればできるんだ。 ・一生懸命働いてよかった。 ・きれいになって気持ちがいい。 ・ほめられてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校清掃や学級ボランティア活動で草取りをしたときの経験などを想起させながら、だんだんいやになってきた気持ちやしかたなく続けようとする気持ちに十分共感させたい。 ・ほめられたことにより、しかたなく草取りをしていたことを反省し、進んで働くことへの気持ちに変わったことに気づかせたい。 ・おばあさんにほめられたときは違い、一生懸命働いて認められたときのうれしさをとらえさせたい。また、夢中になって進んで働いたことによって、働く楽しさや人の役に立ちたいという意欲が出てきたことにも気づかせたい。 ・働くことにより、仕事を成し遂げた成就感や、みんなの役に立ったという満足感を味わうことができることに気づかせ、ねらいに迫りたい。
20分	<p>大そうじが終わって、すがすがしい気持ちになったわたしは、どんなことを考えているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなにほめられてうれしい。 ・疲れたけど、がんばってよかった。 ・働くって気持ちいいんだ。 ・みんなの役に立ってよかった。またがんばろう。 		

見 つ め る 12分	<p>4 今までの自分を振り返り，これからできることを考える。</p> <p>学級ボランティア活動や家での仕事にどんな気持ちで取り組んできましたか。また，仕事をした後どんな気持ちになりましたか。</p> <p>みんなのためにできる仕事はどんなことがありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はしかたなくやっていたけど，だんだん楽しくなって進んでやるようになった。 ・きれいになってすっきりした。 ・ごみ拾い ・あいさつ運動 ・給食後の片付け ・玄関そうじ ・食器あらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級ボランティア活動を想起させたり，「気づく」段階で提示したアンケートの結果を手がかりにしたりすることにより，今までの自分を振り返らせる。 ・心のノート 72・73 ページを活用して，みんなのために自分ができる仕事を考え書かせ，発表させる。
ま と め る 3分	<p>5 まとめをする。</p> <p>「学級ボランティア活動をしてみて」の友達の感想を読みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしもすがすがしい気持ちになった。 ・みんなの役に立つようにがんばろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つ喜びを感じながら働くように意欲をもたせたい。

6 板書計画

朝のそうじ

大そうじが終わってすがすがしい気持ちになったわたしは、
どんなことを考えているのだろう。

手がいたくなってきた

- ・いやだな。もうやめたい。
 - ・つかれた。休もうかな。
 - ・お母さんの代わり、がんばろう。
 - ・大人の人ががんばっている。
- やめるわけにはいかない。

しかたなくまたはじめた

- ・うれしい。
- ・やめないでがんばってよかった。
- ・しかたなくやっていたのに、はずかしい。
- ・もつとはたらこう。

手のいたいのもわすれて草をとりつづけた

三年生なのに、
もうそうじができるの。
えらいねえ。

草が山のよつじ

ほりだされたねっこをどんどん入れた

ねのまわりの草も

ビニールのふくるやあきかん

- ・ほめられてうれしい。
- ・がんばればできるんだ。
- ・いっしょうけんめいはたらいてよかった。
- ・きれいになって気持ちいい。
- ・これからもっときれいにしよう。

「こんなにたくさん
えらくつたね。」

「しゅんぱんくへい
きょつぱんくへい
したね。」

すがすがしい気持ち

- ・みんなにほめられてうれしい。
- ・つかれたけどがんばってよかった。
- ・はたらくって気持ちいい。
- ・みんなの役に立ってよかった。
- ・またがんばろう。

はたらくって気持ちいい

7 資料分析

- (1) ねらい 初めはしかたなく働いていた主人公が、仕事をやり終えた後すがすがしい気持ちになった心の動きに共感させることにより、働くことの大切さに気づき、進んで働こうとする気持ちを育てる。
- (2) 資料名 朝のそうじ(出典 学研)

主な場面	お母さんの代わりに草取りを手伝うが、だんだん疲れてきた場面	おばあさんにほめられ、草取りを続ける場面	やる気を出して、どんどん草を取っている場面	家に帰り、母にもほめられ、とてもすがすがしい気持ちになった場面
把握すべき状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具合の悪いお母さんに代わり、早く起きて草取りを手伝う。 ・ 大人の人たちは、一生懸命ががんばっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「3年生なのに、もうそうじができるの。えらいねえ。」と、本当に感心したように、おばあさんにほめられた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気がつくと、草が山のようにになっている。 ・ ビニールの袋や空き缶などもでてきた。 ・ お父さんに「こんなにたくさん、よくとったね。えらいぞ。」と言われた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんに「ごくろうさま、きょうはいいことをしたね。」とほめられる。
主人公の心の動き	<p style="text-align: center;">勤労</p> <p style="text-align: center;">(苦痛) (責任感) (挫折)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だんだん手がいたくなってきました。 ・ しかたなく、わたしも、またはじめました。 	<p style="text-align: center;">勤労</p> <p style="text-align: center;">(喜び) (反省) (満足)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とってもうれしくなって、手のいたいのもわすれて、草をとりつづけました。 	<p style="text-align: center;">勤労</p> <p style="text-align: center;">(自信) (意欲) (喜び)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わたしもがんばればできるんだ、と少し自信がわいてきました。 ・ これからは気をつけようと思いました。 	<p style="text-align: center;">勤労</p> <p style="text-align: center;">(成就感) (満足感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ つかれたけれど、とてもすがすがしい気持ちになりました。
児童の反応	<ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんの代わりだから疲れてもがんばろう。 ・ 大人の人たちが一生懸命やっているから、やめるわけにはいかない。 ・ 疲れたから、ちょっと休もうかな。 ・ いやだな。もうやめたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっと働こう。 ・ うれしい。がんばればほめられる。 ・ やめないでよかった。ちゃんと見てくれる人がいる。 ・ 仕方なくやっていたのに、ほめられるなんて恥ずかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ もっときれいにしよう。 ・ がんばればできるんだ。 ・ 一生懸命働いてよかった。 ・ きれいになって気持ちいい。 ・ ほめられてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなの役に立ってよかった。またがんばろう。 ・ 働いて気持ちいいんだ。 ・ 疲れたけど、がんばってよかった。 ・ みんなにほめられてうれしい。
基本発問	だんだん手が痛くなってきたとき、わたしはどんなことを考えたでしょう。	おばあさんに「3年生なのに、もうそうじができるの。えらいね。」とほめられたとき、わたしはどんな気持ちになったでしょう。	お父さんに「こんなにたくさん、よくとったね。えらいぞ。」と言われたとき、わたしはどんなことを思ったのでしょうか。	大そうじが終わって、すがすがしい気持ちになったわたしは、どんなことを考えているのでしょうか。